



声援が飛ぶ岩手の郷土食

11回 わんこソバまつり

11° FESTIVAL DE WANKO-SOBA



子供さんの競技

5月28日(日)、岩手の郷土食『名物わんこソバまつり』を思考錯誤の中から始め、お陰さまで今年は11回目を迎えることが出来た。

県人会のわんこソバ祭りは食べ放題に、何と云っても3分間で何杯食べられるかを競う「競技」で、声援や応援に盛り上げて来た。

使うソバは日本製、味付けは、はじめ知人の料理上手3-4人から出汁の作り方を習い、皆さんの指導宜しく「汁」にも凝って、鰹節、イリコは日本で買っていた(岩手産のかたくちイワシ)昆布、香りのよい椎茸などふんだんに使い出汁を前日作り冷蔵。

当日は前もって作っていた醤油と砂糖の「かえし」などと多くの調味料を加え美味しい汁が出来るようになった。



子供さんの競技を終えて

勿論数名に出来た出汁を賞味していただく。

舞台では「どんどん、ジャンジャン」の掛け声で「競技」も始まった。

客席からは写真やビデオを映したり、我が子や友人に「頑張れ!」の応援に参加者は、のどに詰まらせながらも頑張っていた。

今年の競技は7回行われ、昨年111杯で新記録の覇者三宅みのりさん(6組)が107杯で優勝した。4組の90杯の秋吉眞二さん、次いで6組の



菅野ずかさんの88杯した。因みに競技に使ったお碗の数は2,000個でした。

毎回楽しみにモジから来られる菊池達郎さんご夫妻に、今年は娘さん家族(洋子さん、1985年留学生)や会員はじめ、釜石出身の故佐藤博さんの娘さんも参加され、往時の消息や思い出などで交流があった。多くの皆さんが来年も楽しみに参加したいと話していた。

ボランティアの皆さん大変お疲れさまでした。

Muito Obrigado!



第 62 回会員交流誕生会

Confraternização de Aniversariantes



4月23日(日)第62回会員交流会が開かれた。生憎連休が重なり参加者は少なく約40人だったが意義ある親睦活動が出来た。

多田マウロ副会長の司会で先亡者への黙祷、千田会長の挨拶では会活動も順調に行なわれており、東北6県北海道青年部主催の第13回運動会、11回目を迎える「わんこそば祭り」、料理講習会「美味し

いすき焼き」の作り方、7月8・8・9日の日本祭り、8月の63回目の誕生会などを案内。



真の送信が合った。(写真上 千田氏)

祝杯は藤村光夫相談役威勢の良い音頭があり、会員持寄りの食事会が和やかに行われた。ビンゴやカラオケなどもあり、楽しい一日だった。

県知事からの高齢者賀詞(満75才)贈呈が千田曠曉氏、千田功氏(一関出身、フォルタレーザ在)へ多田孝則副会長から伝達があった。尚、千田功氏へは遠距離のため出席不可とあり賀詞を郵送。後日千田氏から写



13回東北6県北海道運動会

Undoukai Tohoku Hokkaido Bloco

5月7日(日)午前9時半から、恒例の東北6県・北海道ブロック青年部主催「第13回運動会」が、Coegio M・Arquiesano校(メ



トロ、サンタクルス駅近く)で担当は岩手県人会で開催され。

好天に恵まれ小さいお子さんからお爺ちゃんお婆ちゃんまで、楽しめる

競技に参加し楽しんでいた。大盛況で1000余人が参加との事。

開会は日伯両国歌斉唱、準備運動の体操から始まった。競技は高齢者の豆拾い、子供や大人のパン食い、競技50m、100m、袋競技、二人三脚、タイヤ転がし、計算競い、昼食時は健康体操、太鼓演奏など、午後からボール送り、婿、義母探し、旗とり、封筒



お子さん方は競技の賞品に喜ぶ

探し、綱引き、玉入れ、全員競技のリレーなど23種目がおこなわれ、老若男女が久しぶりの運動会で楽しんだ1日。お母さんと一緒



6月4日、若い人たちの提案で「スキヤキ体験会」が行われた。

用意された材料を各テーブルごとに持参し、自分たちの好きな具材を

入れ好みにあった味付けをしていた。

メニューの材料は6人分単位で6グループ。それぞれ

が肉や野菜などと調味料など書いた資料を配布。

其々のグループ別に野菜や肉、

調味料を加え好みにあった調理をしていた。

皆さんは自由に好みにあった料理法も格別で皆さん



すき焼き体験会 Sukiyaki - kai

喜んで食べていた。機会があれば次にもおねがいますと。

- 3月10日 NY県人会岩崎雄亮氏の娘さん宏美さんが、サンパウロに18年在は帰国の挨拶に来館
- 25 役員会開催
- 29 会報195号を国内外へ発送、4月23日の第62回親睦誕生会、5月7日の東北ブロック運動会、28日の第11回わんこそばまつ案内を発送
- 30 県連代表者会、定期総会に会長出席
- ☆ 八巻渉国際担当主査から4月1日から、金森 一恵さん（かなもりかずえ）主任主査が担当と知らせあり
- 4月10日 東北ブロック運動会（担当岩手、実行委員長多田マウロ）の案内に新聞社訪問。千田会長同行。
- 11 大志田良子さんと娘さん来館。姉である千葉キクさん（94歳、金ヶ崎町出身）は、4月9日入院加療中亡くられたとの事
- 21 金糸卵作り作業（わんこそば祭り用）
- 23 第62回会員懇親誕生会あり
- 30日 5月1日 2.日3日とアルゼンチン県人会と交流
- 5月7日 東北ブロック運動会 1,000 余名参加か。

- 9日、わんこそば祭り. 料理講習会。日本祭りの案内を会員へ発送
- 10 第11回わんこそばまつりの案内に邦字紙へお願い
- 13 役員会開催 業務報告、わんこそば、料理教室、日本祭り、県人会 60 周年など
- 15 吉田恭子さんより、パラ州トマス事情について受信。ベレンの山中さんに情報を聞き送信
- 17 会計監査を野村なおみさん、阿部正司さんと4月分まで行う。
- 20 日本祭り用コロツケ作り夜遅くまで大勢が作業 2000 個作成
- 22 菊地名誉会長（日本移民110周年実行委員長）県庁訪問の連絡を県と吉田恭子さんにメール発信
- 25 県連代表者会に会長出席
- 6月1日 2018年の日本移民110周年実行委員長、菊地義治さんを賛助会会長の吉田恭子さんが、岩手県政策地域部国際室と岩手日報社へ案内したとメールあり
- 4 スキヤキ体験会に 30 名参加
- 10 役員会開催、日本まつり、県人会創立 60 周年、記念誌など
- 18 日本移民 109 周年慰霊祭に会長出席

岩手県人会執行新役員

Novo Diretoria de Iwate kenjinkai do Brasil 2017 - 2018

- 会長 (Presidente)** 千田 曠曉 Hiroaki Chida
- 副会長 (Vice Presidente)** 多田 孝則 マウロ、Mauro Takanori Tada, 田口 精基、Seiki Taguchi, 平野 マリア Maria Hirano
- 会計 (Tesoureiro)** 昆野 昭仁 ワシントン Washington Akihito Konno, 手島 治 ジョージ、Jorge Osamu Teshima
- 書記 (Secretario)** 大関 多田 照子 Teruko Tada Teruko

峰 清子 ソフィア Sofia Kiyoko Mine

- 監査 (Conselheiro Fiscal Efetivo)** 野村 なおみ Naomi Nomura 及川 秀義 Hideyoshi Oikawa 東 ヴァネッサ Vanessa Higashi
- 監査補 (Conselho fiscal Suplente)** 阿部 正司 Masashi Abe 児玉 道義 ミルトン Milton Michiyoshi Kodama, 巖岩 毅 Takeshi Horoiwa

会費納入者名 Anuidade de 2017

3月25日より

阿部正司 (Masashi Abe)、阿部貴司アイレス (Aires Takashi Abe)、峰きよソフィア (Sofia Kiyoko Mine)、平野マリア (Maria Hirano)。

4月 及川秀義 (Hideyoshi Oikawa)、千田功 (Isao Chida)、平尾宏子 (Hiroko Hirao)、高橋信男 (Nobuo Takahashi)、及川たけおアルツール (Altur Takeo Oikawa)、昆野昭仁ワシントン (Washington Akihito Konno)、昆野とし子 (Toshiko Konno)、田口のりこ (Noriko Taguchi)、伊藤範夫 (Norio Ito)、菊地義治 (Yoshiharu Kikuchi)。

5月 吉田みつこ (Mitsuko Yoshida)、鈴木秀人 (Hideto Suzuki)、鈴木金人 (Kaneto Suzuki)、元榎えいじ (Eiji Motokashi)、田鎖満 (Mitsuru Takusari)。

6月 服部葉子 (Yoko Hattori)、中島悟 (Satoru Nakashima)、田口精基 (Seiki Taguchi)、児玉勲 (Isao Kodama)、浅見マリア (Maria Asami)、野村みつ子 (Mitsuko Nomura)、6月14日まで

事務所来館者数（1階利用者を除く）

3月 441名、4月 399名、5月 368名。

図書貸出数

3月 555冊 113名、4月 514冊 107名、5月 468冊 112名、

寄贈・寄付 お茶菓子 多数、図書 多数

逝去者 (Falecimento)

☆ **千葉 キクさん** (KIKU CHIBA 94才・金ヶ崎町出身) は、入院加療中4月9日逝去されました。

キクさんは1934年6月アラビア丸で、父・田口勇之進（妻は渡伯前亡）、兄・信二夫妻、信二氏の妹・房子、弟・力、妹・キク、妹・良子さんに、構成家族として遠藤秀吉さんと移住。

ほか多分県人で亡くなられた方々もあると思います。

亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。



日本移民 110 周年 (2018 年)

ロゴ・マーク 発表



ロゴマークを発表する菊地実効委員長



110 Anos da Imigração Japonesa no Brasil (2018)

ブラジル日本移民110周年で使用される、ロゴマークの発表会が、5月19日夜7時から文協の貴賓室で、委員会や招体者など約70人が参加し行われた。

ロゴマークはコロニアの画家、若林和男さんが平和を象徴する折鶴をデザイン。2羽の折鶴は相向かいブラジル・日本国旗の色を表している。ロゴが先駆移民へ感謝になればと気持ちを語った。

同式典は2018年7月21日、第21回「日本祭り」会場で行われる、実行委員長の菊地さんは早速訪日し、来年周年式典を行う各県を訪問し、県土産などを日本祭りに、出店紹介して欲しいと要請すると語っていた。

ジャパン・ハウス開館 JAPAN HOUSE SÃO PAULO



日本政府の情報発信拠点として「ジャパン・ハウス・サンパウロ」(JH)が、4月30日日本から麻生財務相や外務副大臣、ブラジル側はテメル大統領やアルキミン州知事、関係者などを迎えて開館した。

5月4日、日系団体などを招いた披露式に私も参加した。JHは市内目抜通りのパウリスタ大通りに設置された。

ジャパンハウスの正面を飾るのは、飛騨の匠たちによる檜を格子状に組み上げた「地獄組み」と呼ばれる美しいオブジェ。幅36メートル、

高さ11メートル、重さの合計6トン以上もの大がかりなもので、日本の東濃桜(とうのうひのき)が使用されている。建物は3層になっており、内部広間には「竹(Bambu)」がテーマで、竹を酌組み合わせた巨大なオブジェが天井まで広がっていた。因みに開館から1ヶ月で目標を大きく上回る、7万5000人の入場者があったと伝えていた。

(要) JHの目的や展示品等のパンフレットを作成し、何を見せたいのかを広報する必要があるのではと思った。

移民の日・109周年慰霊法要

Dia da Imigração Japonesa 109anos

6月18日、午前10時半から、ブラジル日本人移住109周年記念日「日本移民の日」を迎え、



ブラジル都道府県人会連合会と仏教連盟による先亡者への法要が、イピラプエラ公園内の「開拓先没者慰霊碑」に於いて、仏式法要が厳かに行われた。

法要には各県人会が過去帖を持寄り、一般はじめ、中前隆博サンパウロ総領事、日系各団体代表、また、日本人学校の生徒など150人位の参加があった。



早朝にはサン・フランシスコ、カトリック協会、午後には文化協会と仏教連合会の「法要」も執り行われた一日だった。(写真提供 伊東信比古氏)



プラタナスが紅葉・アルゼンチンで県人と交流

Intercâmbio Com Iwate Kenjin Argentina



アルゼンチン県人会の猪又さん(左)と渡辺さん(右)

11,692人(2006年10月)と資料にあった。

翌5月1日渡辺さん夫妻が車で案内。ポッカと云われる港付近は観光コースの一つで、建物はペンキの色派手やかな塗りが目だっていた。(昔船が寄港中船体に塗ったペンキの残りを持帰り、建物に塗ったのが始まりと渡辺さんの話)

また、芸術家が描いた「絵や芸術品」など展示販売されていた。

Rio de La Plata川沿い(対岸が見えない河で河口部が全幅約270kmとか)で、休日のため釣り人が多くいた。因みに大きなナマズ系が釣れると事。

市内のレストランで、渡辺ご夫妻とドイツ系のショップを呑みながらゆっくり懇談した。また渡辺弥氏著の「ブエノス在住30余年の体験記・パンパの風趣に魅せられて」を頂いた。



翌2日は安齋さおりさんの出迎えて、南米で一番古いメトロを使って



連邦議会を視察。建物は古く造られたヨーロッパ風で威厳のある建物で内部は豪華で、上下院内を係りの方からいろいろと説明があった。

次いでホテル近くのショッピングセン

ターを見学。想い出話に花が咲く。

夜は、レストランとタンゴショー専門店。さおりさんとの想い出を話しながら食事。



22時からのタンゴショーは歌手数名が唄う。男女ダンサーにより有名曲で踊るさまは本場のショーそのもので90分堪能した。

3日、さおりさんの都合もあり、私共は市内パレルモ地区にある「日本庭園」を見学した。同公園は25,000㎡の敷地に、1967年(当時皇太子夫妻・現天皇訪問記念公園として造園された。だが管理不備により荒廃していた

1978年日本人会創立60周年事業として大規模な改修拡張を企画。岩手県釜石出身の造園技師、猪又康夫氏の設計・監督のもと現地日系社会が協力し1979年9月完成した。(資料)



タンゴ発祥の地ブエノスアイレスを初めて訪れる機会に恵まれた。

千田夫婦は4月29日深夜ブエノス着。翌30日連絡を入れていた、アルゼンチン岩手県人会の猪又康夫会長(1967年移住、釜石市出身、造園設計師、ブエノスから40K離れたエスコバル市在)、渡辺弥幹事さん(1972年移住、奥州市胆沢区小山出身、元会長、市内在住)がホテルに訪ねてこられた。

お二人の案内で説明を受けながら旧市街地

を散策。予約された新興地(下町)の、有名レストランで会食しながらお互いの県人会について語り合った。

昼食後、旧市街地を通ると有名大学や、タンゴ発祥の館、小さな公園ではタンゴショーが行なわれていた。街路のタンゴは初めて観て楽しい雰囲気



を経験した。アルゼンチン岩手県人会は、会員も少なく特に世代交代が難しいとの事。1972年発行の会報創刊号(ブラジ

ル、パラグアイ、アルゼンチン岩手県人移住者名簿録)によると、当時のアルゼンチン県人

は34家族147名とあった。が、当時の県人1世は少なくなり、2,3世や4世の時代になっていると言う。県人会も若返りを計ったが難しいとの事。



因みに2世以降の日系人が23,000人、日本国籍保有者が



園内に入ると第一印象は、庭園とビル郡、建築物、池、タイコ橋、緑とのコントラストが美しいと感じた。また、街路一帯にも植えられていたが、公園内にもプラタナスの葉が色づき久しぶりに「紅葉」を感じ郷愁に浸った。



本格的造園技師の設計だけあり、様々な施設の配置が素晴らしいと思った。「日本移民汗之碑」もあり当時の外務大臣の名が刻んであった。

大きな資料館や展示室もあり、あらゆる日本文化を伝える品々が展示されている。

丁度館内では、ご夫人たちが生け花を飾っており、いろいろとお話を聞いた。生花は定期的に自然の花や草木を飾っているとの事であった。

何しろ広大な庭園で構築された丘、太鼓橋、灯籠、滝など、池には鯉もところ狭くと泳いでいた。

屋前、安齋さおりさんの市内のアパートへ案内された。屋上から市街地や水平線が見えないほど広い河（ラプラタ）を航行する大型船、市内の飛行場から飛び立つ航空機が飛び立っていた。



昨年、今度結婚すると知らせがあったときは、まるで我が娘が結婚するみたいで「おめでとう」と心から祝った。

さおりさん（写真右）との出会いは、岩手県と南米青年交流事業 2011 年度開始。岩手・南米県人会と交互 4 年間にわたって行われた。以来 JICA でサンパウロ日本語センターのボランティア時に休日などお世話をした。

次はアルゼンチンで日本語などのボランティア活動。この時生徒達を連れてサンパウロ日本語センターで当地の生徒たちと交流活動を行い会員と交流している。その後ブエノスの「日本庭園」で、また 2 年間ボランティア活動中、在ア大使館員と知り合い昨年結婚された。



夕刻さおりさんが空港まで送って頂き、短い時間であったが県人皆さんと交流を終え機上の人となった。

最後にアルゼンチンでお世話に



学童たちも見学

なった県人会の猪又さん、渡辺さんご夫婦、安齋さおりさんに、紙上をかりて心からお礼を申し上げます。



様々な色の石畳と紺碧の埠頭

ふるさとだより 10

記事提供 **岩手日報社** Web News

龍泉洞が半年ぶり営業再開 岩泉、台風被害から復活

昨年 8 月の台風 10 号豪雨で被災し、閉鎖が続いていた岩泉町の国指定天然記念物の龍泉洞は 19 日、約半年ぶりに営業を再開した。県内外から大勢の観光客が詰め掛け、復活した「ドラゴンブルー」の地底湖の眺めを楽しんだ。

午前 8 時半の再開とともに、園地内は多くの人でにぎわった。バスツアーの観光客や親子連れら約 1500 人が復活した地底湖を写真に収めるなどした。新潟県南魚沼市の会社員（23）は「地底湖の水は美しく、歴史を感じた。

新潟も 13 年前の中越地震から復興した。岩泉町も乗り越えて

ほしい」とメールを送った。

安全祈願祭やくす玉割りの再開記念セレモニーも開かれた。

町名物のホルモン鍋約 700 杯が振る舞われ、郷土芸能の中野七頭舞（ななづまい）も披露された。

【写真＝復活した「ドラゴンブルー」の地底湖を眺める来場者＝19 日、岩泉町】
(2017/03/20)



岩手山を背に悠々と 八幡平市・為内の一本桜

ゴールデンウィーク（GW）真っ盛りの4日、県内は陽気に誘われて各地で桜やチューリップなどが咲き誇り、観光客らの目を楽しませた。

八幡平市野駄の為内（いない）の一本桜は、暖冬だった昨年より1週間ほど遅い見ごろを迎えた。

先週後半に日当たりのよい所から咲き始め、連日の陽気で開花が進んだ。4日は朝から行楽客が青空や岩手山を背にした雄大な姿をスマートフォンや一眼レフカメラに収めていた。

【写真＝見ごろを迎えた為内の一本桜。岩手山を背に悠々とした姿を見せる】（2017/05/05）



被災水田、待望の作付け

宮古、津軽石・赤前地区

東日本大震災の津波で浸水した水田を含め集約、大区画化する県の農用地災害復旧関連区画整理事業のうち、宮古市の津軽石・赤前工区（10ヘクタール）の完成箇所19日、水稻の作付けが行わ

れた。生産者は待望の営農再開を喜び、利便性や収益性が向上する新たな農地で米作りを守っていくことを誓い合った。

地元の農業者で組織する宮古東部ファーム（組合員17人）のメンバーらが大型の田植機に乗り、あきたこまちの苗を植えた。それぞれ表情には高揚感や充実感が浮かんだ。

今秋には約2・5トン収穫予定。佐々木積組合長（66）は「ようやくこの日を迎えられた。大型機械を活用して生産できるので、震災後に離農した高齢者や、若い人にも興味を持ってもらいたい」と、農業再興への意欲を新たに示した。

同市の水田は75ヘクタールが被災した。県事業は、被災農地と周辺の未被災農地の計31ヘクタールを一体的に整備しており、2016年2月に着工した同工区が今年9月に完成すれば、市全体の圃場整備が完了することになる。事業費は14億6千万円で、復興交付金を活用した。【写真＝復旧した水田で田植えに励む農業者。待望の作業に喜びをかみしめた】（2017/05/20）

鈴の音、初夏告げる 滝沢一盛岡、

チャグチャグ馬コ

本県の初夏の風物詩「チャグチャグ馬コ」は10日行われ、滝沢市の鬼越（おにこし）蒼前（そうぜん）神社から盛岡市の盛岡八幡宮までの約13キロを、華やかな装束をまとった70頭が行進した。大雨に見舞われながらも進む馬コに、沿道からは声援が送られた。

午前9時半の出発直前に降り出した雨は時折強さを増し、したたる水滴をぬぐいながら歩を進める参加者たち。終盤の盛岡市中心部に入ると、降り続いた雨がうそのように晴れ間がのぞいた。馬コは「チャグチャグ」と鈴の音を響かせ、乗手の子どもたちもかわいらしく沿道に手を振った。

【写真＝長い列をなし、さわやかな鈴の音を響かせて商店街を歩くチャグチャグ馬コ行列＝10日、盛岡市大通2丁目】

（2017/06/11）



広い草原で伸び伸びと

金ケ崎、牛の放牧開始

岩手ふるさと農協（本店奥州市胆沢区、門脇功経営管理委員会）が市から委託を受けて管理している金ケ崎町永沢の胆沢牧野で11日、繁殖牛の放牧が始まった。初日は約120頭を消毒後に放し、牛は広い牧野を駆け回って悠々と草をはんだ。

胆沢牧野は同農協管内の農家から妊娠中の牛を受け入れている。預けた農家は世話の手間が省け、空いた牛舎で新しく牛を育てられる。約101ヘクタールで、一日に最大250頭を放牧できる。10月31日まで。東京電力福島第1原発事故の影響で2012年から放牧を中止したが、14年に一部除染が完了し、15年から全面的に再開している。千田和明場長は「広い牧野で育てるとストレスが軽減される。丈夫な子牛を産んでほしい」と願う。【写真＝牧野に放たれる繁殖牛】（2017/05/12）



岩手県人会ニューズ196号、ふろさとだより ⑩ 併合 2017年6月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

アソシエイション 岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



岩手県人会創立60周年 県人移住100周年 記念誌として県人会の歴史を残そう

2018年は、ブラジル日本移民110周年を迎えます。皆さんの岩手県人会は、創立60周年と県人移住100周年を迎えます。



岩手県会では県人会の創立からの活動や県人移住者名簿など整理し、日本語・ブラジル語で編纂し後世に伝えたいと思います。

岩手からの移住者は統計（1964年）

によると2,431名となっておりますが、その子孫は6世がいるとも思われている。

戦前移民の最後は1940年で、幼少で来られた方々も残り少なく、戦後1953年から再開。当時家族移住の相父母や父母も殆ど亡くなられ、父母に連れて来られた方々も高齢化しております。

お願い 数少なくなった県人移住の歴史や、移住の思い出など振り返りながらなど書いて頂けないでしょうか。

現在会報創刊号の地域別出身者を書き出しておりますが、当時の住所不明者など後に判明した方々もいます。地域別では祖父母の存在も判りますが、個人調査では家長のほかにご一緒された名前など出てきます。これらを整理し掲載、またサイトに掲載すれば、子弟先祖の割り出しに役立つものと思われます。

さて、来年の創立式典は原点に戻り。県人会発足の10月を予定いたしております。（発足は10月11日）

写真は、会報1.2.3号（記念誌）、県人調査原本（箱入）、県人写真集（殆ど1960年代から1970年代）